

しんてんじしょうかい  
新展示紹介

とやまフィールドマップ

いよいよ7月13日に「富山市科学博物館」がオープンします。数ある見所のなかから、今回は「とやまフィールドマップ」を紹介しましょう。

1階に新しくできた展示室「とやま・時間のたび」の入口に立つと、まず目に飛び込んでくるのが「とやまフィールドマップ」です。この地図には自然と人間の力によって形づくられた富山の大地が写し出されています。

マップは人工衛星から撮影した写真を貼り合わせてつくりました。縮尺は1/15000、つまり地上で20メートルのものが、マップ上ではおよそ1ミリになります。立ったままマップを見下ろすと、20キロ〜25キロの高さから地上を眺めることになります。(ちなみに、これはオゾン層のある高さです。)

マップの上に立つと、特徴のある形をした地形や私たちのくらす町の様子がよく見えてきます。火山のはたらきでできた弥陀ヶ原。断層の活動によって直角に折れ曲がった神通川。地下深くにあった岩石が盛り上がった立山連峰。雪解け水や雨や風によって侵食された無数の谷。土砂が扇形に積もった扇状地。人間が造った大きなダム湖。人が集まって発展してきた町、そのなかにある自分の学校、そして自分の家も見分けられるかもしれません。

今ある地形は、地層や岩石、火山活動や断層活動、流れる水や吹きすさぶ風、そして私たち人間の活動など、さまざまなものによって造られたものです。このマップから、富山が地球のダイナミックな活動と人間の力によって造られていることを体感してください。

(たなか ゆたか)

